

教科名	地歴・公民	校種	高等学校
-----	-------	----	------

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	公共	必	2	
	歴史総合	必	2	
2年	世界史B	選	2	
	日本史B	選	2	
	地理B	選	2	
	政治経済	選	2	
3年	世界史B	選	4	
	日本史B	選	2	
	選択日本史B	選	2	
	地理B	選	2	
	倫理	選	2	
	日本史演習	選	2	
	選択政治経済	選	2	

科目名 (教科名)		公共 (地歴・公民科)			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	1. 文化・環境・経済・政治の構造及び歴史的経緯を把握し、総合的に日本及び国際社会のあり方を考える。 2. 人類的課題を認識し、主体的に考察し、公正な判断力をつける。 3. 時事問題をトピック的に取り上げ、社会問題を自分に引きつけて考える。				
学期	授業の項目			内容	
1学期	社会を作る私たち 人間としてよく生きる 民主社会の倫理 民主国家における基本原理 日本国憲法の基本的性格			・人間とは何か ・幸福とは何か ・社会とは何か ・民主主義の作り方 ・憲法はなぜ大切なのか	
2学期	日本の政治機構と政治参加 現代の経済社会 経済活動のあり方と国民福祉			・政治参加の意義 ・経済における効率と平等とは何か ・人口減少時代の日本社会 ・都市と地方の持続可能な発展とは	
3学期	国際社会と人類的課題 国際経済の動向と課題 持続可能な社会づくり			・国家の安全と人間の安全 ・国際経済を席卷するプラットフォーマー ・SDGsの実現に向けて ※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えを行うことがある。	
評価の観点	【知識・技能】 (40%)	テストの得点、知識を問う発問への応答など		・定期試験の知識問題 (例) 穴埋め、正誤判断	
	【思考・判断力・表現】 (30%)	レポート、授業プリントの考察をはじめとした提出課題に書かれた感想、資料やデータを読み取る力など		・定期試験の思考問題 (例) 意見記述、語句説明、論述問題 ・レポート・プレゼン・発表 ・話し合い・作品制作・実技テスト	
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	授業態度や発言・質問内容、ディベート・プレゼンの活動状況、提出物など		・振り返り ・小テスト・ノート作り ・授業態度・課題提出	
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 60 % 平常点 40 %				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳細 公共」 (出版社名) ● 副教材 : 「テーマ別資料 公共2022」 (とうほう)				

科目名 (教科名)		歴史総合 (地理・歴史科)			
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修
目的	<p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けられるようにする。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
	学 期	授 業 の 項 目		内 容	
1 学期	近代化と私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 ・欧米諸国と日本の国民国家形成 ・帝国主義の時代 		
2 学期	国際秩序の変化や大衆化や私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と大衆社会 ・経済危機と第二次世界大戦 		
3 学期	グローバル化と私たち		<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦と脱植民地化 ・多極化する世界 ・グローバル化と現代世界 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合があります。		
評価の観点	【知識・技能】 (30%)	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど		<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の知識問題 (例) 正誤判断、読み取り 	
	【思考・判断力・表現】 (40%)	・レポートなどの提出課題に書かれた感想など。		<ul style="list-style-type: none"> ・各授業で問うMQへの応答 (例) レポート、プリント 語句説明、論述問題 ・レポート・発表・話し合い 	
	【主体的に学習に取り組む態度】 (30%)	・授業内で取り組むミニツツペーパーやレポートで積極的に自らの意見を設定できているかなど。		<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り (ミニツツペーパー) ・各授業で問うMQに対する応答 ・授業態度 	
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニツツペーパーを加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 30 % 平常点 70 % ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。 				
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「歴史総合」 (実教出版) ● 副教材 : 「問いからはじまる歴史総合」 (とうほう) 				

科目名 (教科名)		世界史B (地理・歴史科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史、現代史と関連付けながら理解する。文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学期	先史の世界 オリエントと地中海世界 中国史について			<ul style="list-style-type: none"> ・人類の進化 ・ギリシア世界 ・ローマ世界 ・古代オリエント世界 ・中国の古典文明 ・北法民族の活動と中国の分裂 	
2 学期	アジア・アメリカの古代文明 中国史について イスラーム世界の形成と発展			<ul style="list-style-type: none"> ・インドの古典文明 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 ・東アジア文化圏の形成 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 	
3 学期	ヨーロッパ世界の形成			<ul style="list-style-type: none"> ・西ヨーロッパ世界の成立 ・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合があります。	
評価の観点	【関心・意欲・態度】		・授業中の積極的な発言や質問、レポート等で自ら進んで課題を設定できているかなど。		
	【思考・判断力・表現】		・レポートなどの提出課題に書かれた感想など。		
	【技能】		・ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料など。		
	【知識・理解】		・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど。		
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニツツペーパーを加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70 % 平常点 30 % ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科書・副教材等	●教科書 : 「詳説 世界史B」山川出版社 ●問題集 : 「詳説世界史 10分間テスト」山川出版社 ●副教材 : 「ニューステージ 世界史詳覧」浜島書店				

科目名 (教科名)		日本史B (地理歴史科)			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 歴史を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考える。
2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学び、国際理解、近隣諸国への理解を深め、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。
3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	近代国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末の動乱 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立と日清戦争 ・日露戦争と国際関係
2 学期	二つの世界大戦とアジア	<ul style="list-style-type: none"> ・近代の産業と文化 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・市民生活の変容と大衆文化
3 学期	二つの世界大戦とアジア (続き) 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・恐慌の時代と軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 <p>(現代史で学年末に残った範囲は高3の日本史で学習する)</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題、授業プリント点検など
	【技能】	・図版・地図など史資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法： 定期考査+授業プリント・プリントファイル・課題レポートなどの提出物の平常点 ●割合： 定期考査70% 平常点30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書： 「詳説 日本史B」 山川出版社 ●副教材： 「新詳 日本史」 浜島書店 	

科目名(教科名)	地理B (地歴・公民科)				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	1. さまざまな地図と地理的 技能 ・地理情報と地図 ・地図の活用と地域調査 2. 現代世界の系統地理的考察 ・自然環境 ・環境問題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界地図や世界観の歴史、図法、地理情報システム ・地図資料の活用および地域調査の方法 ・世界の大地形、各種の小地形、世界の気候 ・日本の自然環境、災害と防災 ・地球環境問題
2 学期	・資源と産業	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の農林水産業 ・食料問題 ・世界のエネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 ・世界の工業
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・資源と産業(続き) ・人口・村落・都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三次産業 ・交通・通信、情報 ・現代世界の貿易と経済圏 ・世界の人口、人口問題 ・都市と村落、都市・居住問題 <p>※上記授業計画は、授業展開の都合や生徒の状況から変更する 場合がある。</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物、発表など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 「新地理の研究」啓隆社 	

科目名(教科名)	政治・経済(地歴・公民科)				
担当教員	下 政一				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	選 択

■ 授業の目的

1. 私たちの日常生活とかかわりの深い政治・経済について理解し、社会のしくみへの関心を高める。
2. 現代の政治・経済に関わる諸課題について主体的に考え、表現する力をつける。
3. 時事的な出来事に関心を持ち、客観的な見方、考え方を身につける。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	第1編 現代の政治 1. 現代国家と民主政治 2. 日本国憲法と基本的人権 3. 日本の政治制度と政治参加 4. 現代の国際政治	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の成立や基本原理・各国の政治制度について理解する。 ・国際社会の変遷や国際法の意義、国際機構の役割について理解する。
	5. 日本の平和主義と国際平和 第2編 現代の経済 1. 現代の経済社会 2. 現代の日本経済と福祉の向上 3. 現代の国際経済	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の安全保障と国際貢献について理解する。 ・国際政治の特質や国際紛争の諸要因について理解し、日本の役割について考察する。 ・現代経済の特質を理解し、経済活動の在り方を考察する。 ・グローバル化が進む国際経済の特質や国際協調の必要性について理解し、国際経済における日本の役割について考察する。
3 学期	第3編 現代社会の諸課題	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用と労働をめぐる問題、少子高齢社会と社会保障、地球環境と資源・エネルギー問題、経済格差の是正と国際協力、農業と食糧問題、人種・民族問題などについて政治を経済とを関連させて考察する。 <p>※上記授業計画は、適宜変更・入れ替えをおこなうことがある。</p>
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、ディスカッションの活動状況、提出物など
	【思考・判断・表現】	レポート、プレゼンをはじめとした提出課題など
	【技能】	資料やデータを読み取る力など
	【知識・理解】	テストの得点、知識を問う発問への応答など
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+プリント・提出物・発表など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70~80%+平常点(提出物・発表など)20~30% 	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 最新 政治・経済(実教出版) ● 副教材 : 政治・経済資料2022(実教出版) 	

科目名 (教科名)		世界史B (地理・公民科)			
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	選択
目的	1. 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、史料・資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。 2. 文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に貢献するための自覚と資質を養う。 3. 世界史で大学受験をめざすための知識や実力を修得する。				
学期	授業の項目			内容	
1 学期	** 高2世界史Bで学習した内容の続き 内陸アジア世界・東アジア世界の形成			<ul style="list-style-type: none"> 東アジア文化圏の形成 	
	内陸アジア世界・東アジア世界の展開			<ul style="list-style-type: none"> 東アジア諸地域の自立化 モンゴルの大帝国 	
	アジア諸地域の繁栄			<ul style="list-style-type: none"> 東アジア世界の動向 清代の中国と隣接諸地域 	
	イスラーム世界の形成と発展 ヨーロッパ世界の形成と発展			<ul style="list-style-type: none"> インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 西ヨーロッパ中世世界の変容 	
2 学期	世界史Bでの大学受験をめざして、入試問題の演習			<ul style="list-style-type: none"> 前半は、近現代史の復習を中心とした問題演習 後半は、大学入学共通テストや私立大学の過去問を中心とした問題演習 	
3 学期	世界史Bでの大学受験をめざして、入試問題の演習			<ul style="list-style-type: none"> 国公立二次試験対策として、論述問題の演習など 	
評価の観点	【関心・意欲・態度】 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。 【思考・判断・表現】 レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。 【技能】 ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。 【知識・理解】 定期試験や模擬試験の得点に着目する。				
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・発表・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30%				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳説 世界史B」山川出版社 ● 問題集 : 夏休み以降に、必要な問題集を適宜購入する。 ● 副教材 : 「New Stage 世界史詳覧」浜島書店				

科目名 (教科名)		日本史B (地理・公民科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択
目的	1. 歴史学を多角的・論理的に学習して、歴史を動かす要因について考える。 2. 日本の歴史が、諸外国との関係の中で成り立っていることを学ぶことにより、国際理解・近隣諸国への理解の必要性を感得し、また、現在の国際関係などにも積極的な関心を持つようにする。 3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。				
学期	授業の項目		内容		
1学期	二つの世界大戦とアジア 占領下の日本 日本文化のあけぼの		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次世界大戦 ・ 占領と改革 ・ 冷戦の開始と講和 ・ 文化の始まり ・ 農耕社会の成立 ・ 古墳とヤマト政権 		
2学期	律令国家の形成 貴族政治と国風文化 中世社会の成立		<ul style="list-style-type: none"> ・ 飛鳥の朝廷 ・ 律令国家への道 ・ 平城京の時代 ・ 天平文化 ・ 平安王朝の形成 ・ 摂関政治 ・ 国風文化 ・ 地方政治の展開と武士 ・ 院政と兵士の台頭 		
3学期	日本史学習を振り返って		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の私たちと歴史のつながりを考える 		
評価の観点	【関心・意欲・態度】 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。 【思考・判断・表現】 レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。 【技能】 ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。 【知識・理解】 定期試験や模擬試験の得点に着目する。				
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・小テスト・授業態度を加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 約70% 平常点 約30%				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳説 日本史B」 (山川出版社) ● 副教材 : 「新詳 日本史」 (浜島書店)				

科目名 (教科名)		選択日本史B (地理・歴史科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選 択
目的	1. 歴史を多角的に学習することにより、客観的思考を養い、現代社会のあり方を主体的に考える力を身につける。 2. 歴史を通して、日本と諸外国との関係を学び、平和な国際社会のあり方について考察する 3. 過去に学ぶことを現代に生きる私たちの指針とし、未来への礎とする。				
学 期	授 業 の 項 目			内 容	
1 学 期	中世社会の成立 武家社会の成長 幕藩体制の確立			・鎌倉幕府の成立, 蒙古襲来と幕府の衰退 ・武士の社会, 鎌倉文化 ・室町幕府の成立, 幕府の衰退と庶民の台頭、室町文化 ・戦国大名の登場 ・織豊政権桃山文化	
2 学 期	幕藩体制の確立 (1学期の続き) 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺			・幕藩体制の成立, 幕藩社会の構造 ・幕政の安定, 経済の発展, 元禄文化 ・幕政の改革, 宝暦・天明期の文化 ・幕府の衰退と近代への道, 化政文化	
3 学 期	日本史学習を振り返って			・現在の私たちと歴史のつながりを考える ※上記授業計画は授業展開や生徒の状況から変更する場合がある。	
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	・授業中の積極的な発言や質問、レポート等で自ら進んで課題を設定できているかなど。			
	【思考・判断力・表現】	・レポートなどの提出課題に書かれた感想など。			
	【技能】	・ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料など			
	【知識・理解】	・年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど			
評価の方法と割合	● 評価方法 : 定期試験における成績状況と提出物・レポート・ミニツツペーパーを加味し総合点を算出する。 ● 割合 : 定期試験 70 % 平常点 30 % ※評価方法と割合は必要に応じて変更する可能性がある。				
教科書・副教材等	● 教科書 : 「詳説 日本史B」 山川出版社 ● 副教材 : 「新詳 日本史」 浜島書店, 「史料による日本史」 山川出版社				

科目名 (教科名)	地理B (地歴・公民科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 現代世界の地理的事象を系統的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
2. 現代世界の諸地域を、歴史的・文化的背景をふまえて地誌的に考察する方法を修得する。
3. 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きるための自覚・資質を体得する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・資源と産業 (高2の続き) ・人口・村落・都市 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のエネルギー・鉱産資源 ・資源・エネルギー問題 ・世界の工業 ・第三次産業 ・交通・通信, 情報 ・現代世界の貿易と経済圏 ・世界の人口, 人口問題
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・人口・村落・都市 (続き) ・世界の衣食住 ・民族と宗教 ・現代世界の地誌的考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と村落, 都市・居住問題 ・世界の衣食住の地域的差異 衣食住の画一化, 日本の衣食住 ・世界の民族, 言語, 宗教 民族問題, 地域紛争, 領土問題 ・世界地誌 <p>※上記授業計画は、授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合があります。</p>
3学期		
評価の観点	【関心・意欲・態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。
	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。
	【技能】	ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。
	【知識・理解】	定期試験や模擬試験の得点に着目する。
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物など平常点を加味して評価する。 ● 割合 : 定期テスト70%+平常点30% 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書 : 「新詳地理B」帝国書院 ● 副教材 : 「新詳高等地図」帝国書院、「二訂版 最新地理図表GEO」第一学習社 「新地理の研究」啓隆社 	

科目名 (教科名)		倫理 (公民科)			
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 「人間はいかに生きるべきか」・「人生はいかにあるべきか」について、先人の思索の成果を学ぶ。
2. 人類が辿ってきた倫理的・哲学的課題を考えることを通して、人間のあり方・生き方について、現代社会に生きる自らのこととして主体的に考察する。
3. 過去の「共通テスト」の演習を実施し、大学入試に対応する。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ (青年期の課題と自己形成) ・ 人間としての自覚 ・ 現代に生きる人間の倫理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (必修の「現代社会」の授業で学習) ・ 古代ギリシャの思想 (ソクラテス・プラトン・アリストテレス) ・ ユダヤ教とキリスト教、イスラム教 ・ 人間の尊厳と生命尊重 (ルネサンス・宗教改革・モラリスト) ・ 近代科学の哲学 (ガリレイ・ニュートン・科学革命・ベーコン・デカルト) ・ 民主社会と幸福 (社会契約説・功利主義・初期社会主義) ・ 自己実現と社会参加 (カント・ヘーゲル・マルクス)
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代に生きる人間の倫理 (続き) ・ 人間としての自覚 (続き) ・ 国際社会に生きる日本人 ・ (現代の諸課題と倫理) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己実現と社会参加 (実存主義・プラグマティズム) ・ 新しい時代への扉 (フロイト・ユング・構造主義・フランクフルト学派・セン) ・ 古代インド思想・仏教 ・ 中国思想・儒学 ・ 日本の風土と人々の考え方 ・ 日本の仏教 ・ 日本の儒教 ・ 国学と近世民衆・近代日本の思想 ・ (必修の「現代社会」の授業で学習)
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 哲学と現代 (まとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代に生きる我々の倫理・哲学的課題を考える。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目する。 【思考・判断・表現】 レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。 【技能】 ノートのまとめ方や研究発表で作成した資料などに着目する。 【知識・理解】 定期試験や模擬試験の得点に着目する。 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <教科書> 「高等学校 新倫理」清水書院 <副教材> 「最新図説 倫理」浜島書店 	

科目名 (教科名)	日本史演習 (地歴・公民科)				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 日本史で大学受験をめざす者に対する、受験知識を中心に学習する。
2. 日本史Bで学習しない原始・古代を学ぶ。
3. 受験に必要な史料の読解、資料の解説、および私学・センター入試対策としての問題演習を行う。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	共通テスト・私大入試分析	過去問題からどんな勉強が必要か把握する
	古代～近世ダイジェスト史 分野史	歴史を、主導勢力・経済・国際関係などの「軸」を設けて、その筋道を把握する。 職制、法制、北方(アイヌ)・琉球、外交・条約、土地制度・税制などの分野ごとの通史を把握する
2 学期	分野史(続)	同上
	(入試問題演習)	・史料集・資料集の中から重要・頻出の史料・資料を選んで、そのポイント・用語・意味を学習する。 ・共通テスト対策、私大対策として、過去問題、類似問題に多く当たり、出題者の意図や解答の際の着目点などを含めた解説を行う。
3 学期	入試問題演習)	・(同上) ※上記授業計画は、必要に応じて入れ替えを行う場合がある。
評価の 観点	【関心・意欲・態度】	授業態度・出欠度数
	【思考・判断・表現】	授業中の発問、論述題の得点
	【技能】	史料問題に対する得点
	【知識・理解】	知識を問う問題への得点
評価の 方法と 割合	適宜行う演習問題・入試過去問題などではかる	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書 : 「詳説 日本史B」山川出版社 ●副教材 : 「新詳 日本史」浜島書店 必要に応じて、問題集を購入させる場合がある。	

科目名 (教科名)	選択政治経済 (公民科)				
担当教員	田中 嗣弘				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 私たちの日常生活と関わりの深い政治・経済について理解し、社会の仕組みへの関心を高める。
2. 人生を主体的に生きていくための判断基準を構築し、表現できるようにする。
3. 時事的な出来事に関心をもち自分の考えを持つ「賢い大人」になる。

■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	2. 現代の経済 (3) 現代の国際経済 1. 現代の政治 (1) 現代国家と民主政治	・国際経済のしくみ・動向、発展途上国の課題について学習する。 ・民主政治の成立や基本原理・各国の政治制度について学習する。
2学期	3. 現代社会の諸課題 ◇共通テスト問題演習 (分野別) 1. 現代の政治 2. 現代の経済	・これまで学んだことをもとに、地球環境問題をはじめとする現代社会の諸課題について、テーマ別に考察を深める ・学習した範囲について問題演習を行う。
3学期	◇直前演習 ・弱点について知識の整理を行う	
評価の観点	【関心・意欲・態度】	・授業態度や発言・質問内容
	【思考・判断・表現】	・論述問題やレポート課題など
	【技能】	・図版・グラフなどの資料の読み取りを小テストなど
	【知識・理解】	・定期テストの成績
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> ●評価方法：定期テスト＋ノート・提出物・課題レポートなど平常点を加味して評価する。 ●割合：定期テスト70%＋平常点30% (学期レポート・提出物・授業態度等) 	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ●教科書：「最新 政治・経済」実教出版 ●副教材：「政治・経済資料」とうほう 	